

桐蔭横  
大 学

## 屋上緑化に挑む`研究者の卵たち`

### 校舎の温度差やエアコン消費量を検証

研究メンバーと大日化成の社員



都市のヒートアイランド現象の改善策として注目される屋上緑化の効果を検証しようと、桐蔭横浜大学の生徒らが、1日、同大学校舎の屋上に緑化パネルを設置した。作業を行ったのは、同大学工学部の涌井・飯島研究室のメンバーら。これまでにプレハブを用いたモデル実験はあるものの、実際の建物での検証例は少なく、学会のみならず企業からも大きな期待が寄せられている。

今回の取り組みは、区内の熱気候緩和や、校舎に対する断熱効果を明確な数値で検証しようとしたもの。

緑化システムを開発する大日化成株式会社（本社・大阪）の支援によって、大掛かりな研究が実現した。「省エネビジネスが盛んになる中、企業からの注目もめ

ています」と同社技術部山下律正さん。

同研究室は、緑化された教室と、緑化されていない教室との温度差や、28℃に設定したエアコン消費量の比較を行い、屋上緑化の効果の検証を行なってゆく。

ヘルメットをかぶった生徒らは、約50cm四方の緑化パネル500枚を半日かけて並べた。パネルには、夏の高温や乾燥に強いとされる多肉植物・セダムが植えつけられている。

リーダーの金澤健さんは、「自分たちの研究結果が貴重なデータとなったり、地域の緑化づくりのきっかけとして貢献できれば嬉しい」と語る。